

# アレルゲンタンパク質の網羅的解析

- アレルゲンデータベースの構築 -

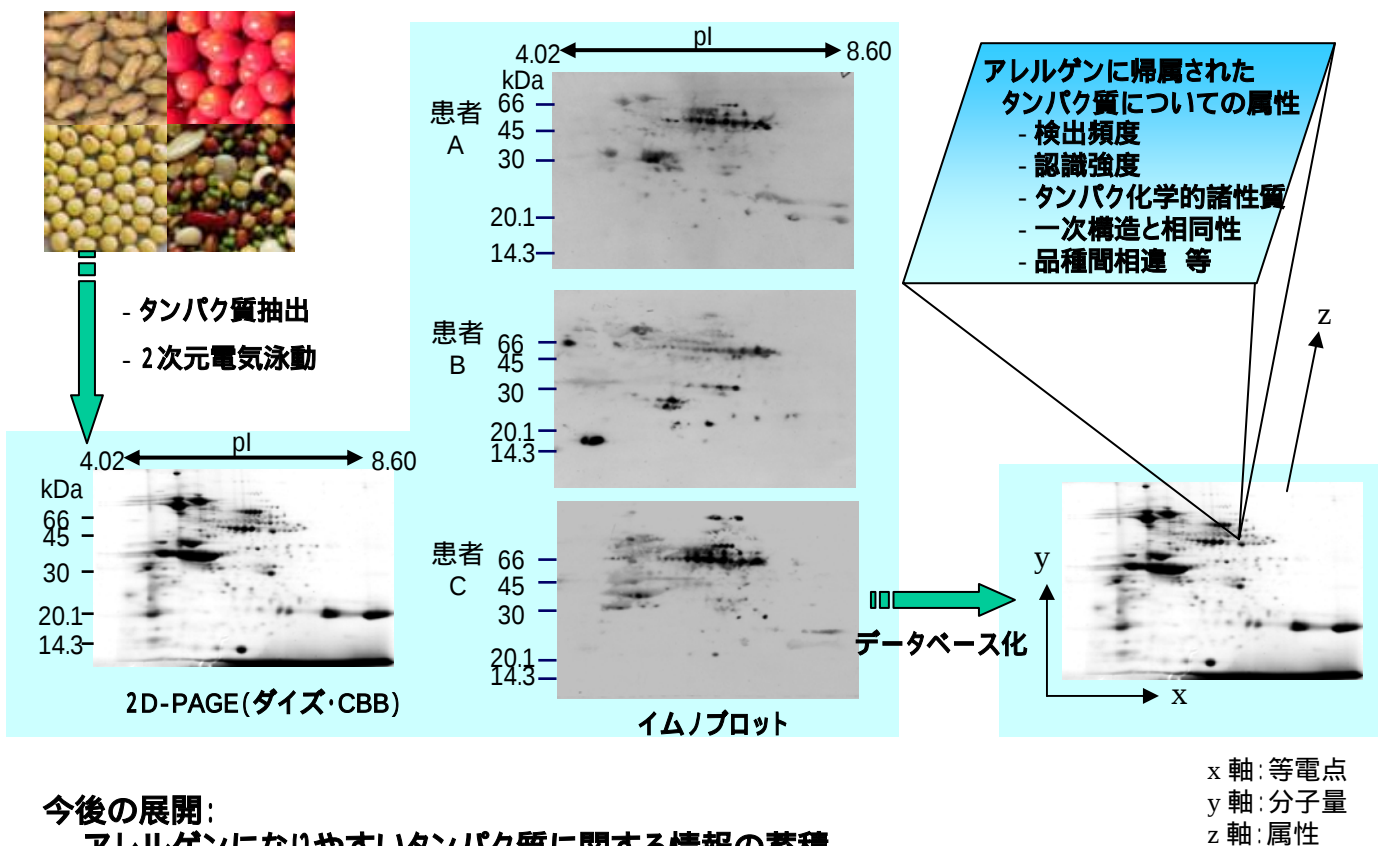
## 研究の背景:

平成14年4月から「アレルギー物質を含む食品の表示」制度が本格施行された。アレルギー問題に対する様々な取り組みが行われているが、当研究室はアレルギー惹起因子であるアレルゲンの解明が最重要と考え、アレルゲンのデータベース化を進めている。

## 技術の特徴:

2次元電気泳動法により農産物のタンパク質を分離し、等電点、分子量の情報から対象作物の全タンパク質成分の戸籍化を行う。

タンパク質成分と食物アレルギー患者血清でのイムノプロットのスポットとをマッチングさせる。認識強度、検出頻度、属性などの情報を追加してデータベース化する。



## 今後の展開:

- アレルゲンになりやすいタンパク質に関する情報の蓄積
- アレルゲン性低減化のターゲット分子の絞り込み
- 遺伝子操作前後でのアレルゲンの変動をモニター
- 栽培時期や栽培条件によるアレルゲンの変動をモニター 等



代表研究者: 橋田 和美

所 属: 企画調整部 食品衛生対策チーム

問い合わせ先: 研究交流科 関谷 修三

e-mail: atunisi@nfri.affrc.go.jp